

Kazumasa Matsumoto

松本和将 (ピアノ)

シリーズ“杜の響き”
2008年度のテーマ
は、一つ一つの楽器
の音色をより深く味
わうというもの。

「ガブリエル・リブキン
無伴奏チェロ・リサイタル」から始まり、「平野
公崇サクソフォン・リサイタル」「ジュゼッペ・アン
ダローロピアノ・リサイタル」と、それぞれの楽
器の魅力を最大限に引き
出し、私たちの想像をは
るかに超える演奏を繰り
広げる面々が登場した。
さて、今回は、ピアノとヴァ
イオリンによる名曲の聴き
比べをお贈りしたい。企画
の発端は、かつて聴いた松
本和将の「シャコンヌ」から。
その感動が心に、いやその
ときの興奮がいまでも体中
に甦るほど素晴らしい演奏
だった。

対するヴァイオリニストは、
2006年日本音楽コンクール
優勝、期待の大型新人、黒川
侑(17歳)。
名曲「シャコンヌ」と「シャコン
ヌ」の競演をお楽しみください。

中学3年で第48回全日本学生音楽コンクール中学生の部全国優勝、初リサイタル開催。高校在学中には、ホロヴィッツ国際ピアノコンクール第3位入賞。1998年、第67回日本音楽コンクールに優勝、併せて増沢賞をはじめ全賞を受賞。

ソロリサイタルや室内楽をはじめ、これまでにブラハフィル、ベルギー国立オーケストラ、読売日響、日本フィル、新日本フィル、東京交響楽団など国内外のオーケストラと共演。チェコ、中国、ドイツなどでの演奏会にも出演する。2004年1月には、チェロの趙静とともにNHK TV「スタジオパークからこんにちは」に出演。

現在ベルリン芸術大学大学院に留学しており、ラジオ・テレビの出演や留学記連載など、ドイツと日本を往復しつつ、意欲的な演奏活動を行っている。2001年第53回ブゾーニ国際ピアノコンクール第4位。2003年には世界三大コンクールの一つ、エリザベト王妃国際音楽コンクールで日本人最高位の第5位入賞を果たす。その音楽性豊かな演奏は国内外で高い評価を得ている。またビクターエンターテインメントよりリリースされた数々のCDは各誌で絶賛されている。

これまでに谷口厚子、芦田鶴子、故中島和彦、角野裕、御木本澄子、バスカルドヴァイヨンに師事。

岡山県芸術特別顕賞、倉敷市芸術文化栄誉章、福武文化奨励賞、マルセン文化賞、エネルギー音楽賞受賞。

公式HP <http://www.kaz-matsumoto.com>

シリーズ“杜の響き”に
ふさわしい究極の企画が
実現した。



黒川 侑 (ヴァイオリン)

1990年生まれ。5才よりヴァイオリンを始める。
2001年第55回全日本学生音楽コンクール小学校の部全国大会第1位。
2002年第12回日本クラシック音楽コンクール中学校の部全国大会第1位。
2003年第3回岡山芸術文化賞グランプリを最年少で授与される。同年、第10回ドイツ国際ヴァイオリンコンクールジュニア部門第2位、最優秀バハ賞。受賞記念ガラコンサートの演奏を、地元紙で「13才にしてしっかりとしたテクニックを自由に使いこなした彼は、ガラコンサートでの演奏で注目すべき音楽的才能を見せ、我々はその小さな演奏家の音色にうっとりとした」と評される。
2006年16才で第75回日本音楽コンクール第1位、岩谷賞(聴衆賞)、併せてレウカディア賞・鷲見賞・黒柳賞受賞。
2007年より、第186回毎日ゾリステン(クラシック・ヨコハマ)、京の俊英演奏家シリーズvol.32を始めとするリサイタル、オーケストラとの協演など多くの演奏会に出演。また第16回国際音楽祭ヤング・ブラハに招待され、チェコ各地でリサイタルの他、ファイナルコンサート(ドヴォルジャークホール)で、プラハ室内交響楽団と協演し、音楽祭の名誉総裁でもあるヴァイオリニストのヨゼフ・スーク氏に絶賛される。
これまでに、京都市交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団などと協演。
漆原啓子、千々岩英一、J・J・カントロフ各氏のレッスンを受講。工藤千博、パヴェル・ヴェルニコフ各氏に師事。

Yu Kurokawa



杜のホールはしもと・ホール

橋本駅(JR横浜線・相模線、京王相模原線)
(新宿より最速39分) 北口すぐ ミウイ橋本7F

【お問合せ】
杜のホールはしもと
神奈川県相模原市橋本3-28-1 ミウイ橋本内
TEL 042-775-3811
※お車でお越しの方は、隣接の市営第2立体駐車場をご利用ください。
(駐車料金:30分・150円)